



文部科学省後援 PDA 全国高校即興型英語ディベート合宿・大会 2024 報告書

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2024年8月2日(金)～3日(土)

(1日目) 練習3ラウンド、予選1

(2日目) 予選2、予選3、キーノートレクチャー、レクリエーション、準決勝、決勝

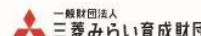
会場：Zoomにてリモート開催

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

後援：文部科学省

助成：公益財団法人 KDDI 財団、一般財団法人三菱みらい育成財団

協力：大阪公立大学



参加者数：高校生 311 名 (42 校・89 チーム)

参加高校：42 校 92 チーム

(岩手県) 岩手県立一関第一高等学校、岩手県立花巻北高等学校、岩手県立盛岡第一高等学校、岩手県立盛岡第四高等学校 (茨城県) 清真学園高等学校、東洋大学附属牛久高等学校 (栃木県) 作新学院高等学校 (群馬県) 群馬県立太田女子高等学校 (埼玉県) 埼玉県立川越女子高等学校 (千葉県) 千葉県立千葉高等学校、千葉県立船橋高等学校、翔凜高等学校 (東京都) 品川女子学院高等部、獨協中学高等学校 (神奈川県) 神奈川朝鮮中高級学校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校、神奈川県立相模原高等学校、神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立多摩高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、栄光学園高等学校、湘南白百合学園高等学校、聖光学院高等学校 (福井県) 福井県立藤島高等学校 (長野県) 長野県長野高等学校、長野県屋代高等学校、長野県伊那北高等学校、長野県諏訪清陵高等学校 (岐阜県) 岐阜県立岐阜高等学校 (愛知県) 愛知真和学園大成高等学校、東海高等学校、南山高等学校女子部 (京都府) 京都府立嵯峨野高等学校、ノートルダム女学院高等学校 (大阪府) 大阪青凌高等学校、関西大倉高等学校、関西創価高等学校 (兵庫県) 雲雀丘学園高等学校 (徳島県) 徳島県立城ノ内中等教育学校、徳島県立徳島北高等学校 (福岡県) 福岡県立城南高等学校 (沖縄県) 沖縄県立前原高等学校(順不同)

開催趣旨：

〈高校生向けプログラム〉

本合宿・大会は、即興型英語ディベートの実践を中心としたプログラムで、集中的に「英語での発信力」、「論理的思考力」、「幅広い知識」、「プレゼンテーション力」、「コミュニケーション力」を鍛えます。大学生・大学院生、PDA 認定教育ジャッジによる手厚い指導も伴い、効果的に上記スキルを向上させます。また他校生徒との交流も深まります。初心者の方も歓迎です。高校生向けのプログラムでは、合宿での集中実践の成果を効果的に発揮できるよう、後半には大会を設けています。

〈教員向けプログラム〉

本合宿・大会では、生徒のみならず、教員を対象としたプログラムを同時に進行させます。2022年度からの「論理・表現」をはじめ、授業に導入できる即興型英語ディベートの手法を知っていただく、また即興型英語ディベート実践を経験していただくプログラムとなっています。授業での導入を前提とするため、合宿では一つのセッションを50分としています。また、効果的なプログラムを共に開発するための意見交換会も設けています。

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）：

論題 1 : School trips should be abolished.

（修学旅行を廃止すべきである。）

論題 2 : Animal experiment should be abolished.

（動物実験を廃止すべきである。）

論題 3 : All political parties should be banned.

（すべての政党は禁止されるべきだ。）

論題 4 : All doctors should be required to work in rural areas for a couple of years.

（全ての医師に数年間の地方勤務を義務付けるべきである。）

論題 5 : We should stop using English as the common language of science.

（科学の共通語として英語を使用することをやめるべきである。）

論題 6 : Power harassment should be severely punished.

（パワハラは厳しく罰されるべきである。）

論題 7 : Doping should be allowed in the Olympic Games.

（オリンピックにおいてドーピングを認めるべきだ。）

論題 8 : Decentralization of the population of Tokyo will do more good than harm.

（東京への一極集中の緩和は、害よりも利益をもたらす。）

練習ラウンド中は各テーブルで生徒にもジャッジ役を割り振り、他の生徒のディベートを聞いて客観的に勝敗を考える練習を行いました。自身の考えた勝敗やその理由と、メインジャッジを務めている教員ジャッジの勝敗やその理由を比較しながら、どのような点で説得力の差が出るのかを知る機会となりました。



教員ジャッジによるフィードバックの様子(藤島 VS 柏陽 Judge: 嵯峨野)

練習ラウンド2の論題は「動物実験を廃止すべきである。」でした。動物が受ける苦痛や人々が得られるメリットなど多様な観点からの説明があり、最終的に何を優先すべきかなど議論を深めていました。Government（肯定側）は“動物の権利”や“生態の違い”について、Opposition（否定側）は“実験費用”や“薬の開発”について立論し、ディベートを行いました。ラウンド1でもらったジャッジフィードバックを生かしてスピーチを行っている様子が見られました。なぜ重要・深刻なのかという分析まで説明し、ディベートが活発に行われていました。



スピーチの様子(川越女子 VS 藤島)

高校生と同じ論題で、教員によるディベート実践も行われました。実際にディベートすることで生徒の感覚を掴んだり、POIの行い方などを把握したりする機会となりました。

練習ラウンド3の論題は「すべての政党は禁止されるべきだ。」でした。“個人の意見の反映にとってどちらが良いか” “選挙において選択肢が増えることは良いことか” “政策決定の効率が落ちるのではないか”などの観点から議論が交わされました。



川越女子 VS 長野(Judge: 柏陽)



茅ヶ崎北陵 VS 牛久(Judge: 屋代・藤島)

1 日目の最後は、予選1が行われました。予選1の論題は「全ての医師に数年間の地方勤務を義務付けるべきである。」でした。地方における医師不足を背景に、その解決方法として医師の地方勤務義務付けが妥当であるのか、他に解決方法はないのか、医師のキャリアなどについて議論が交わされました。都市部における医師が現状よりも少なくなることによる弊害など、地方だけではなく都市部への影響について議論するチームもありました。ディベート後はジャッジより勝敗の説明と個人フィードバックを受けました。



ディベートの様子(相模原高校 VS 太田女子高校・作新学院高校混合チーム)

2 日目

2 日目は、各校の出欠確認の後、予選2が行われました。予選2の論題は「科学の共通言語として英語を使用することをやめるべきである。」でした。「共通言語である英語」がもたらす利益や害について分析し、スピーチを組み立てる様子が見られました。また、英語以外の言語で論文などが書かれた場合のデメリットを反論で述べていたチームもありました。意見を確かめるために積極的にPOIを行う様子もみられました。



ディベート後の交流(大成・茅ヶ崎北陵)

論題に関連して、クイーンズランド大学環境学部上級講師、生物多様性・保全科学センター副所長の天野達也先生からキーノートレクチャーをいただきました。

現状では科学の共通語が英語である一方、英語以外の言語でも科学に関する文献は多く出版されており、特に英語を公用語としない国では科学の知見を利活用する上で重要であることや、AIがそこにどう関わってくるのかについてご説明いただきました。



クイーンズランド大学・天野達也先生によるキーノートレクチャー



積極的に質問する様子

予選3の論題は「パワハラは厳しく罰されるべきである。」です。議論の中では主に学校での話や職場での話が多く出されました。パワハラの曖昧な部分をきちんと定義することで、肯定側・否定側の両方が同じ認識で深い議論を展開しました。肯定側は被害者側の意見を多く述べ、否定側は“厳しく罰する”という部分についての指摘があり、“冤罪などが起こりやすくなる”など、より悪い状況になってしまうとスピーチしていました。また、受験コースの教員はディベート実技試験に向けてディベート実践を行い、POIも交わりながらパワハラについて議論しました。教育現場に例えながらスピーチする場面もあり、教員ならではのディベートとなりました。



受験コースの教員によるディベート実践・ディベート後の握手

昼食後には Zoom でレクリエーションが行われました。「犬と猫どちらが好きですか？」という参加者アンケートを行い、犬好きの割合を当てるというルールของเกมが行われ、ブレイクアウトルームに分かれて「反論と POI のどちらが楽しいか」などについて他の高校の生徒と交流しました。中には反論派と POI 派でディベートが行われているブレイクアウトルームもあり、進行を務めていた代表生徒の判断で反論が勝ちました。



自己紹介をしながら反論の魅力や POI の魅力について語り合っています

レクリエーション後は、授業の部と課外活動の部（一般）の準決勝進出チーム及び課外活動の部（初心者）の決勝進出チームを発表しました。論題は「オリンピックにおいてドーピングを認めるべきだ。」です。フランス・パリではオリンピックが行われており、ホットな話題に、直近のニュースなどを引用しながらスピーチする場面も見られました。



授業の部 準決勝戦(城南 A VS 神奈川朝鮮)



課外活動の部(初心者) 決勝戦(茅ヶ崎北陵 A VS 大成) ディベート後の握手



課外活動の部(一般) 準決勝戦(長野 1 VS 聖光)

最後は、授業の部と課外活動の部(一般)の決勝です。決勝戦の論題は「東京への一極集中の緩和は、害よりも利益をもたらす。」です。たくさんの観客が見守る中、参加者たちは堂々とディベートを行い、この2日間の合宿を締めくくるにふさわしい熱い議論が繰り広げられました。議論の中では、東京と近郊のエリア、地方の話などが出ていました。



課外活動の部(一般) 決勝戦(聖光 VS 長野 2)



授業の部 決勝戦(作新 AVS 神奈川朝鮮)

表彰式では決勝戦の結果発表と表彰が行われました。表彰者が発表されると、たくさんの拍手が送られ、代表生徒が「夏休みの思い出になった」と感想を述べました。



ベストディベーター賞集合写真(授業・課外初心の部)



ベストディベーター賞集合写真(課外一般の部)



ベスト POI 賞集合写真(授業・課外初心の部)



ベスト POI 賞集合写真(課外一般の部)



作新学院高等学校



神奈川県朝鮮中高級学校



長野高等学校



聖光学院高等学校

結果

チーム賞（授業の部）

優勝：作新学院高等学校 A

準優勝：神奈川朝鮮中高級学校

3 位：福岡県立城南高等学校 A、東洋大学附属牛久高等学校 B

チーム賞（課外活動の部 初心者）

優勝：神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校 A

準優勝：愛知真和学園大成高等学校

チーム賞（課外活動の部 一般）

優勝：聖光学院高等学校

準優勝：長野県長野高等学校 2

3 位：長野県長野高等学校 1、南山高等学校女子部

ベストディベータ賞（授業の部・課外活動の部初心者）※★は3回選ばれた生徒

_____さん（岐阜 B）★	_____さん（多摩 B）
_____さん（品川女子）★	_____さん（多摩 A）
_____さん（太田女子 A）★	_____さん（湘南）
_____さん（太田女子 B・作新）	_____さん（茅ヶ崎北陵 B）
_____さん（雲雀丘 B）	_____さん（茅ヶ崎北陵 A）
_____さん（大阪青凌）	_____さん（船橋）
_____さん（ノートルダム）	_____さん（城南 A）
_____さん（岐阜 A）	_____さん（神奈川朝鮮）
_____さん（長野 B）	_____さん（作新 A）
_____さん（屋代 B）	_____さん（牛久 C）
_____さん（藤島 B）	_____さん（盛岡第四 A）
_____さん（藤島 A）	_____さん（大成）
_____さん（相模原 A）	_____さん（屋代 A）

ベストディベーター賞（課外活動の部 一般）※★は3回選ばれた生徒

_____さん（作新）★	_____さん（柏陽1）
_____さん（南山女子）★	篠澤 七海_____さん（湘南白百合）
_____さん（東海）	_____さん（湘南）
_____さん（長野2）	_____さん（花巻北）
_____さん（藤島2）	_____さん（盛岡第一2）
_____さん（藤島1）	_____さん（獨協）

ベストPOI賞（授業の部・課外活動の部初心者）※★は3回選ばれた生徒

_____さん（前原C）★	_____さん（雲雀丘A）★
_____さん（雲雀丘B）★	_____さん（作新B）★
_____さん（ノートルダム）★	_____さん（太田女子B・作新）
_____さん（大成）★	_____さん（茅ヶ崎北陵C）
_____さん（岐阜B）★	_____さん（盛岡第一）
_____さん（茅ヶ崎北陵A）★	_____さん（城ノ内）
_____さん（品川女子）★	_____さん（牛久B）
_____さん（城南C）★	_____さん（牛久A）
_____さん（城南A）★	_____さん（作新B）

ベストPOI賞（課外活動の部 一般）※★は3回選ばれた生徒

_____さん（屋代1）★	_____さん（聖光）
_____さん（柏陽1）★	_____さん（柏陽3）
_____さん（湘南）★	_____さん（栄光1）
_____さん（城ノ内）	_____さん（川越女子）
_____さん（長野2）	_____さん（作新）
_____さん（伊那北）	_____さん（一関第一3）
_____さん（藤島2）	_____さん（一関第一1）

アンケート（抜粋）

●生徒の声

- ・悔しい思いもしましたが、たくさんの方々とのディベートをでき、ジャッジの方々からフィードバックをいただけ、学びとなった。（城ノ内）
- ・たくさん試合ができて成長した実感が湧きました。（作新学院）
- ・チームメイトと協力しあい、他校の方と交流できて楽しかったです。（茅ヶ崎北陵）
- ・普段交流することのない高校と話せて刺激を受けた。もっと英語力を向上させたいと思った。（花巻北）
- ・ディベートももちろん楽しかったが、日本中のいろんな県の高校の人たちとの交流がとても楽しかった。（嵯峨野）
- ・ディベートをするのがとても楽しかった。チームで相談することで色々な視点が出てきて、そこから立論を立てたり、反論できることを考えてみんなでディベートを作り上げることが楽しかった。今回は何度かPOIができて、POIによってより議論が深まるので、もっと上手くできるようになりたい。だんだん経験を積むことで、例を含んでいえたり、プラン後の世界をいえるようになった。（岐阜）
- ・初めての経験でしたが楽しかったです。チームメイトとの絆が深まったのでよかったです。（ノートルダム女学院）
- ・さまざまなモーションのさまざまな視点の意見を聞くことができいい刺激になった。ジャッジのコメントからさらに深まってよかった。（一関第一）
- ・普段は学校内のみでの交流だが、より広い相手と論争することができチームメイトと一つの目標に向かって戦うのが楽しかった。（諏訪清陵）
- ・最高！（屋代）
- ・非常に楽しく、また各ラウンドことの解説が勉強になりました。（南山女子）
- ・始まった頃は自信がなかったのですが、交流のなかでチームメイトに支えられ自分も支えたいと思えるようになりました！非常に興味深い体験でした！（城南）
- ・ディベートは色々な観点を持っている人がいてこんな風に考えるんだととても勉強になったし、他校との交流も楽しかった。（城南）
- ・やっぱり仲間と協力出来ることは楽しいしちゃんと協力してるという実感が湧きます。それがとても楽しいです。（翔凜）
- ・他校との交流のみならず、ジャッジの先生から個人コメントなどもいただきとても参考になりました。ありがとうございました。（盛岡第一）
- ・ジャッジの方も限られた時間の中でフィードバックしていただき今後につなげていきたいと思います！試合に関わった学校とも今後の練習試合を通して交流を続けていきたいと思います。（徳島北）
- ・難しい論題もあったけれど、色々な視点から物事を論理的に考えることができた。また、他校の人とも普段あまり関わることができないけれどこの大会を通してたくさんコミュニケーションをとることができた。（湘南白百合）
- ・4月からディベートを始めて、それからあまり上達している気がしなかったけれど、ベストスピーカーになれたり、自分のチームの勝利に貢献した発言ができたりして、成長を感じた。（清真）
- ・他のチームと熱い試合ができた上、交流もできた。何より自分の成長を実感できたことが良かった。（相模原）

- ・オーストラリアの大学の先生のお話を伺うことができ勉強になった。（相模原）
- ・たくさん試合をする機会があり、また、勝敗がつく緊張感のある雰囲気での2日間でも自分自身大きく成長したのを実感できた。（川越女子）
- ・ディベートが上手な高校の方と対戦できたことで学べたことがたくさんあったし、ジャッジの方の丁寧なコメントは次に繋げられるものばかりで、とても勉強になった。（屋代）
- ・いろんな高校の人とディベート・交流をして、学びがたくさんあって、もっと努力しようと思えました。楽しかったです。（盛岡第四）
- ・まだ4月に始めたばかりでしたが、チームメイトとうまく連携できた部分が多く、数ヶ月前には何も話せなかったのが、今はある程度できるようになり自分でも成長を感じられ嬉しかった。（大成）
- ・ジャッジの方からのフィードバックがとても分かりやすくてためになった。（長野）
- ・ディベートを通してさまざまな視点での考えを知ることができた。対戦後に相手と健闘を称えて全くディベートに関係ないことまで仲良く話せた。（柏陽）
- ・多様な論題を通して社会問題への一般的な視点以外の立場から議論することで視野が広まった。役割が3rdでスピーチの構成が自由な分、書き方や話し方に迷うことも多いがジャッジの方々の客観的なアドバイスが参考になったのでこれからの大会に活かしていきたい。他校の方とも交流を深められて実りの多い大会でした。（品川女子）
- ・回を重ねる毎にチームの団結力も上がっていき、チームメイトと仲を深めることができた。また、相手チームの英語力やディベート力に感銘を受け、英語へのモチベーションが更に上がった。（関西大倉）
- ・初めての参加だったのですが、最初からハイレベルなディベートができて楽しかったです。授業でディベートを行っている高校や部活としてディベートを行っている高校など、自分たちも取り入れていけたら良いなと思いました。勝っても負けても学ぶことが多く、次にこの経験を活かすためにまた参加したいなと思っています。（前原）

●教員の声

- ・他の学校のディベーターやジャッジの方を拝見でき、とても勉強になった。
- ・論題が楽しかったのとキーノートスピーチが勉強になった。
- ・まだディベートを始めたばかりの生徒も多く、交流をする良いきっかけになりました。私自身ジャッジ体験はとても良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・生徒たちがたくさんディベートの機会を持つことができた。また、新しいmotionが多く出されており、参加した生徒たちはもちろん、自分の思考も広がった。
- ・ジャッジをさせていただき、生徒さんたちの英語の論理的な力について改めて考えさせられることも多々あり、自己研鑽になった。
- ・生徒に良い経験をしてもらえた。自分自身教員ラウンドで良い経験ができた。
- ・初日の補足ラウンドにて、ハイレベルな教員とジャッジの方と貴重な試合をできたのがとても印象的でした。

ご支援、ご協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。 以上

写真



岩手県立盛岡第一高等学校



神奈川朝鮮中高級学校



福井県立藤島高等学校



長野県屋代高等学校



愛知真和学園大成高等学校